

平成25年7月30日(火)
平成25年度 第4回
大阪府河川整備審議会

参考
資料
1

大津川水系河川整備計画(変更原案) についての住民説明会

本説明資料は、大阪府河川室ホームページでも見るすることができます。
(アドレス http://www.pref.osaka.jp/s_kasen/)

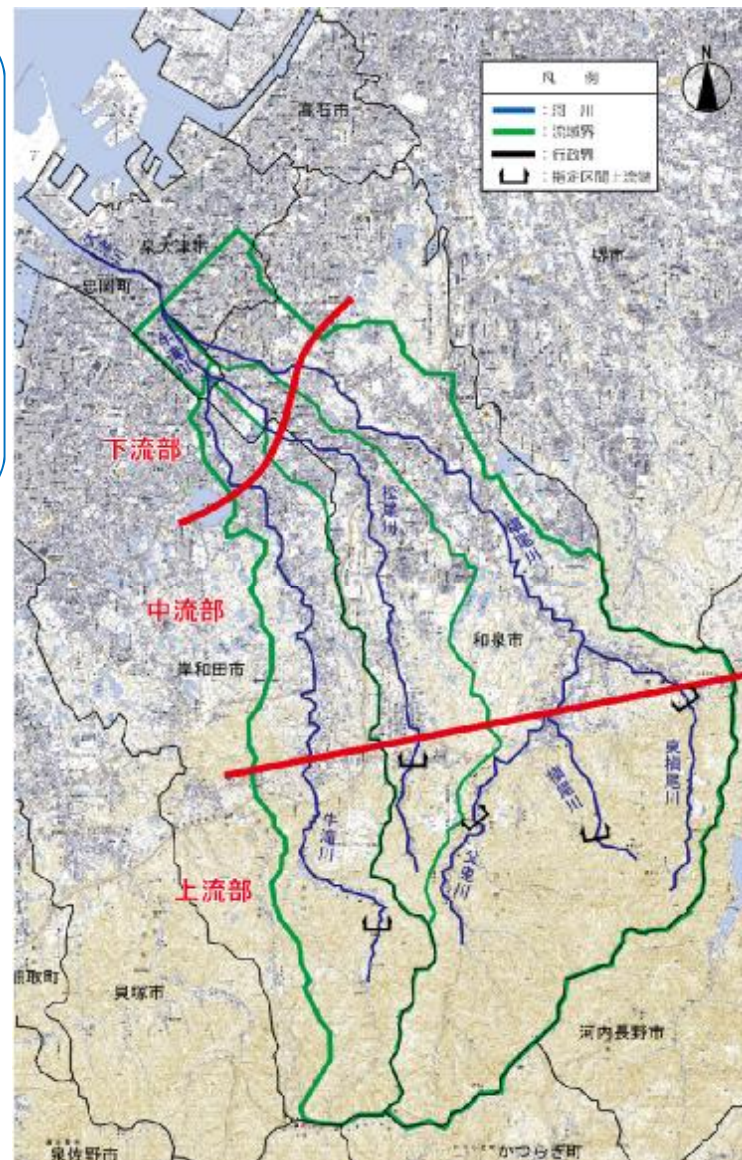
1. 大津川水系（流域）の対象河川について

流域の概要

- Ⅰ 流域市町：和泉市・岸和田市・泉大津市・忠岡町
- Ⅰ 指定区間延長56.6km
- Ⅰ 流域面積 102.2km²（府域最大二級水系）
- Ⅰ 下流部→市街地/中流部→丘陵地開発/上流部→自然豊か（金剛生駒紀泉国定公園に指定など）

河川延長一覧表

河川名	指定区間延長(km)	流域面積(km ²)
大津川	2.6	102.2
槇尾川	18.3	56.7
父鬼川	3.2	19.7
東槇尾川	2.6	10.6
牛滝川	17.5	45.4
松尾川	12.3	18.0
計	56.6	102.2



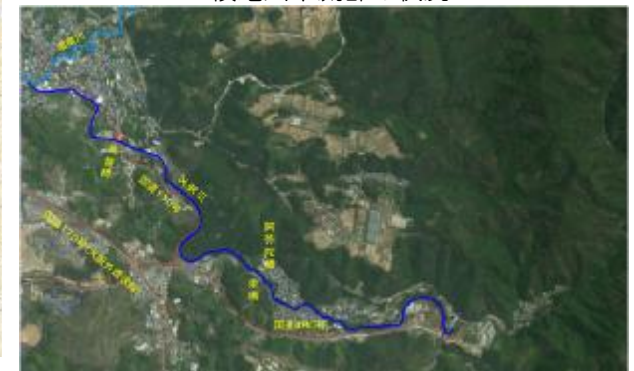
大津川流域



大津川下流部の状況



槇尾川中流部の状況



父鬼川上流部の状況

2. 河川整備計画とは

【河川整備計画とは】

- 河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたもの。

【河川整備基本方針とは】

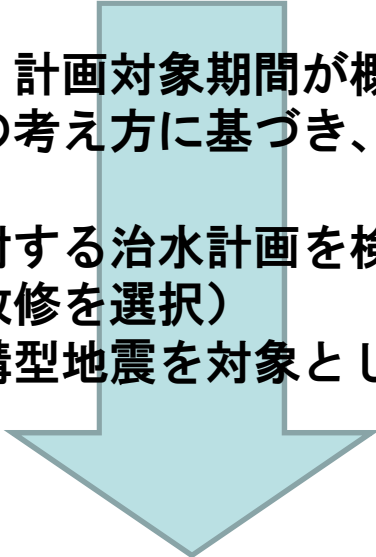
- 河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針（治水・利水・環境）を定めたもの。

※河川法により、河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされている。
大津川水系では、H12.12月に河川整備基本方針、H13.2月に河川整備計画を策定。

3. 大津川水系河川整備計画の変更にあたって

■大津川水系河川整備計画の策定(H13.2月)

- ・ 大津川水系の河川整備の当面の目標を定めたもの。
- ・ 計画対象期間：概ね15年

- ・ 河川整備計画の策定から、計画対象期間が概ね経過しようとしていること。
 - ・ 大阪府の新たな治水対策の考え方にに基づき、各河川ごとに当面の治水目標を定めたこと。
 - ・ 上記、当面の治水目標に対する治水計画を検証したこと。（結果、槇尾川では槇尾川ダムに代わり河川改修を選択）
 - ・ 東南海・南海地震等の海溝型地震を対象とした護岸、堤防の耐震対策の実施が必要であること
- 等
- 

■大津川水系河川整備計画（変更）の策定を行う。

3. 大津川水系河川整備計画の変更にあたって

河川整備計画の策定フロー

河川整備計画（変更原案）

← 学識経験者からの意見

大阪府河川整備審議会※（および治水部会など）
において審議

【大阪府河川整備審議会※】

- ・平成24年11月より大阪府河川整備委員会から名称変更

← 住民の皆様からのご意見

本日

内容の説明およびご意見の聴取

河川整備計画（変更原案）

住民の皆様のご意見を反映し修正したもの

河川整備審議会にて了承の場合

河川整備計画（変更案）

← 地方公共団体の長の意見

← 国土交通省の同意・認可

河川整備計画

策定

4. 大阪府の新たな治水対策の考え方

新たな治水対策

【基本的な理念】 人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1)現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2)「逃げる」「凌ぐ」^に 施策を強化するとともに、「防ぐ」^の 施策を着実に実施する。
- (3)府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

【当面の治水目標（今後20～30年）の設定】

- 時間雨量50ミリ程度※¹の降雨で床下浸水を発生させない。かつ、事業効率等を考慮し時間雨量65ミリ程度※²もしくは時間雨量80ミリ程度※³の降雨で床上浸水を発生させない。

【河川情報の提供】

- 住民が的確に避難行動がとれるよう、河川氾濫や浸水に対する情報提供に努める。

※1 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨

※2 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨

将来目標（長期計画）

- 府管理の全河川について、時間雨量80ミリ程度※³の降雨でも、川があふれて、家が流され、人がなくなるようなことをなくす。

※3 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

4. 大阪府の新たな治水対策の考え方

地先の危険度
低減に向けた

総合的・効果的な治水手法の組合せ

流出抑制

雨が降っても河川へ出る水量を減らす。
(家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用など)

治水施設の保全・整備

河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避するなど、
河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。
(河川改修・堆積土砂除去など)

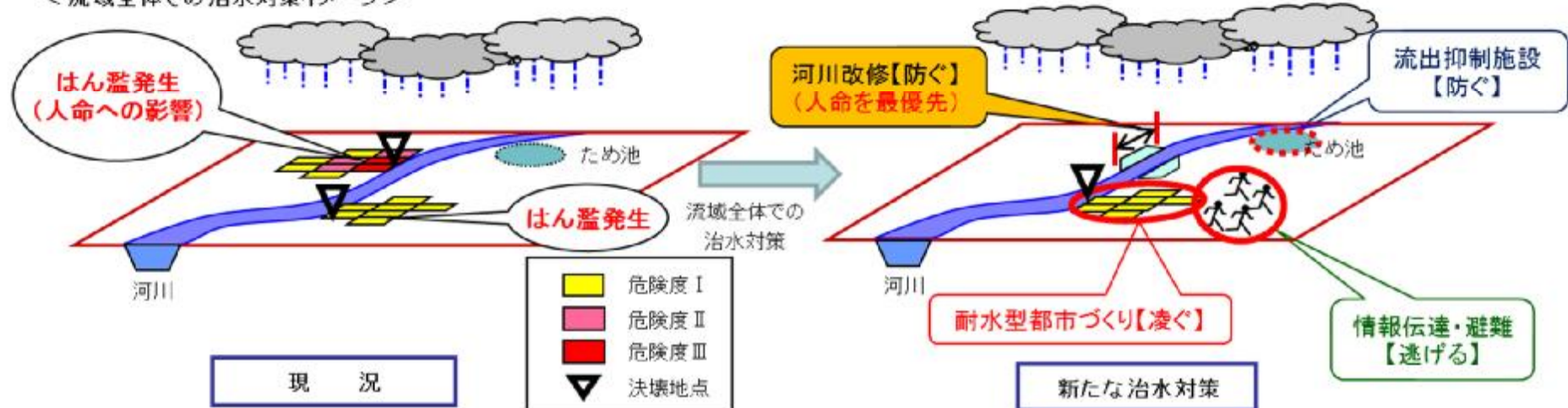
耐水型都市づくり

河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。
(家屋の耐水化・高床化などの促進)

情報伝達・避難

河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。
(洪水はん濫・浸水による危険性の周知、流域市と連携した避難体制づくり
の促進など)

<流域全体での治水対策イメージ>



5. 大津川水系河川整備計画（変更原案）の内容について

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の計画対象区間
5. 河川整備計画の計画対象期間
6. 本計画の適用

第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により
設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

第2節 河川情報の提供に関する事項

6. 大津川流域の現状について

河川の特徴

- Ⅰ 大津川・・・市街化の進展した地域における貴重な親水空間（高水敷は河川公園）
- Ⅰ 榎尾川・・・下流→市街地内を流れ、川幅が広く緩傾斜護岸/中流→農地内を蛇行/上流→集落内を蛇行
- Ⅰ 東榎尾川・・・榎尾川合流点→集落内を流下/上流→山地部を流れる溪流の様相
- Ⅰ 父鬼川・・・榎尾川合流点→集落内をゆるやかに蛇行/上流→山地部の谷間集落を流れる自然河川
- Ⅰ 牛滝川・・・下流→市街地内を流下（高水敷は河川公園）/中流→宅地や農地内をゆるやかに蛇行/上流→山地部を流れる溪流の様相
- Ⅰ 松尾川・・・下流→住宅地及び農地内を流れ急勾配の高い護岸/中流→旧河川敷での公園整備/上流→宅地や農地内を蛇行



1. 橋並橋上流（大津川）



2. 国道26号付近（榎尾川下流部）



3. 上川橋付近（榎尾川中流部）



4. 神田橋付近（榎尾川上流部）



5. 上川橋付近（東榎尾川）



6. 常盤橋付近（父鬼川）



7. 山谷橋付近（牛滝川中流部）



8. 紅葉橋付近（牛滝川上流部）



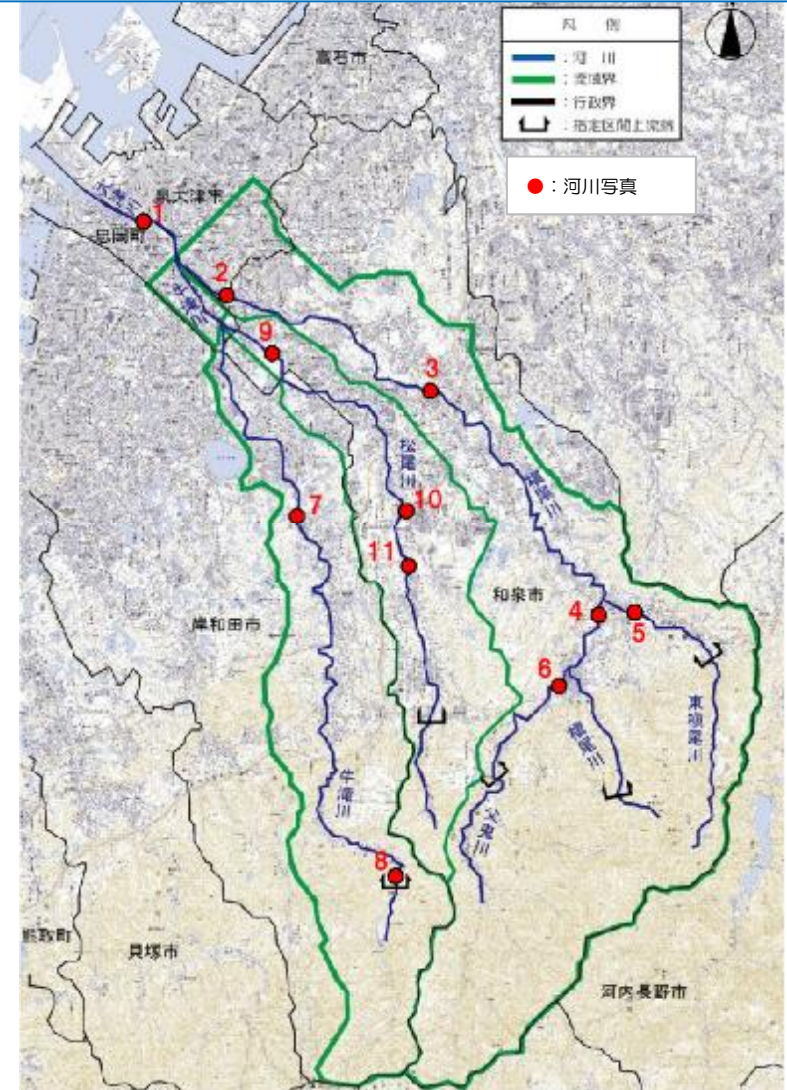
9. 前川橋付近（松尾川下流部）



10. 久保惣橋付近（松尾川中流部）



11. 庄ノ川橋付近（松尾川中流部）



6. 大津川流域の現状について

自然環境特性

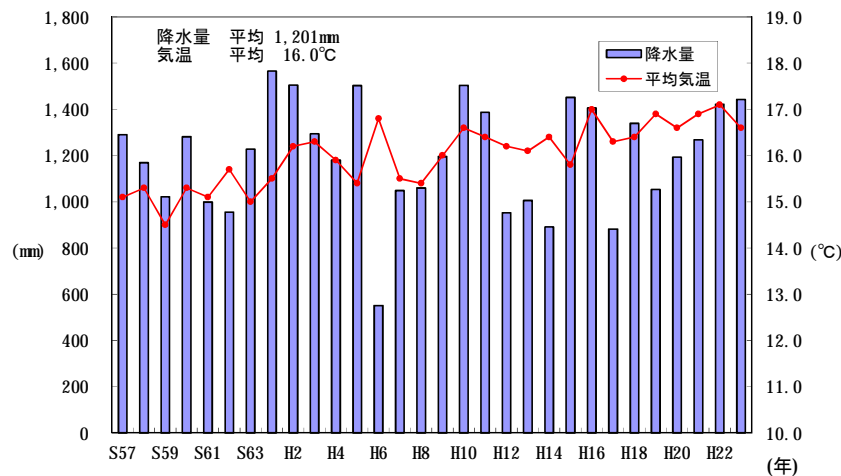
- Ⅰ 気候は瀬戸内海式気候（年平均降水量が少ない）
- Ⅰ 流域内に約280ヶ所のため池
- Ⅰ 上流部の和泉山地にはアベマキーコナラ群集等が広がる
- Ⅰ 「牛滝山のシラカシ林」（特定植物群落）、「泉穴師神社の森」（大阪みどりの百選）等が存在
- Ⅰ 魚類：オイカワ（上下流）、カワムツ（中上流）、メダカ・ドジョウ（中下流）
- Ⅰ 底生生物：ヒメモノアラガイ、ゲンジボタル（上流部）
- Ⅰ 鳥類：コアジサシ、アオサギ、コチドリ



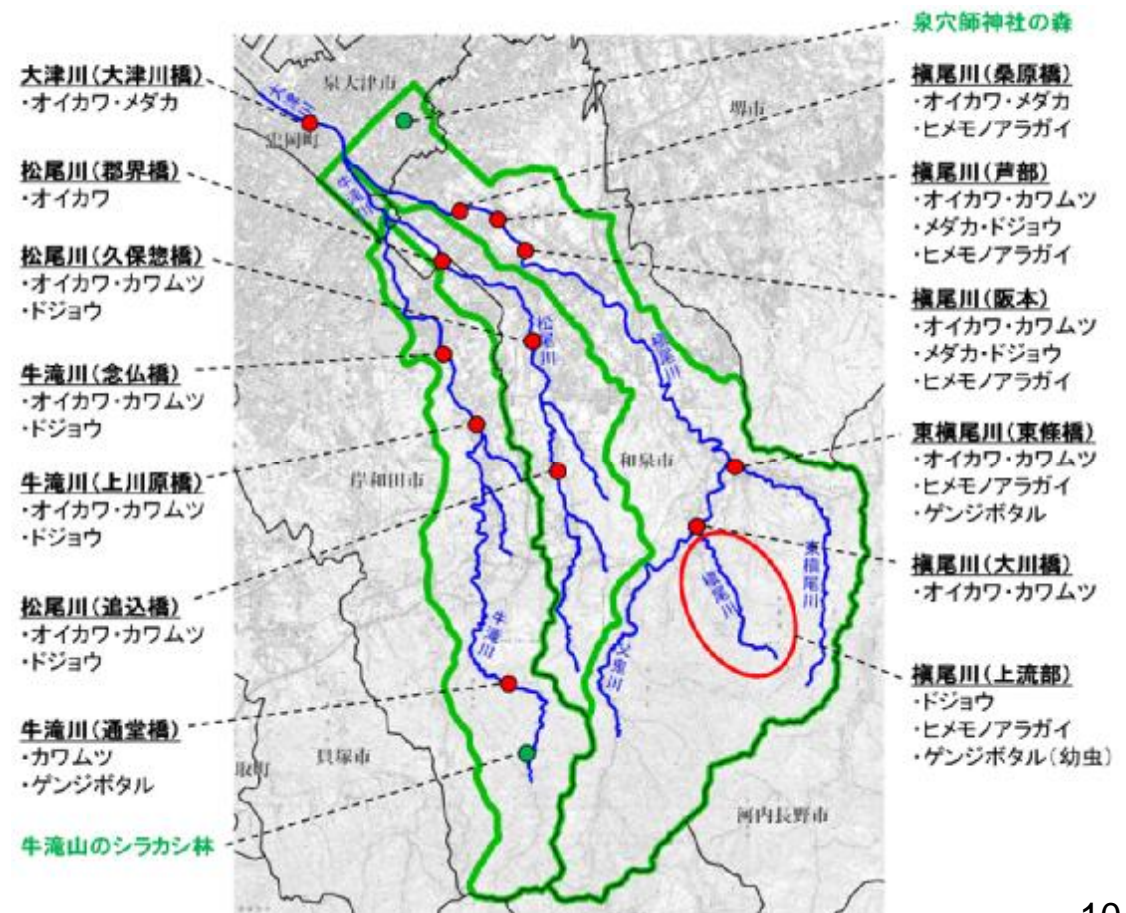
牛滝山のシラカシ林



泉穴師神社の森



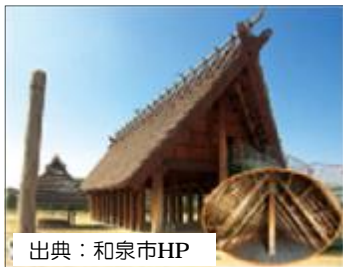
年降水量と年平均気温の推移（堺観測所）



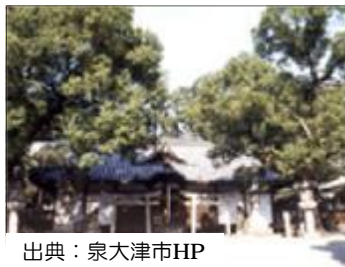
6. 大津川流域の現状について

歴史・文化・観光

- I 池上・曽根遺跡（弥生時代の環濠集落）→「池上曽根遺跡公園」（当時の建物を復元）
- I 「大津川河川公園」、「和泉市立青少年の家」、「牛滝温泉 いよやかなの郷」等の施設や槇尾山や葛城山のハイキングコース等、観光レクリエーション施設が多く存在



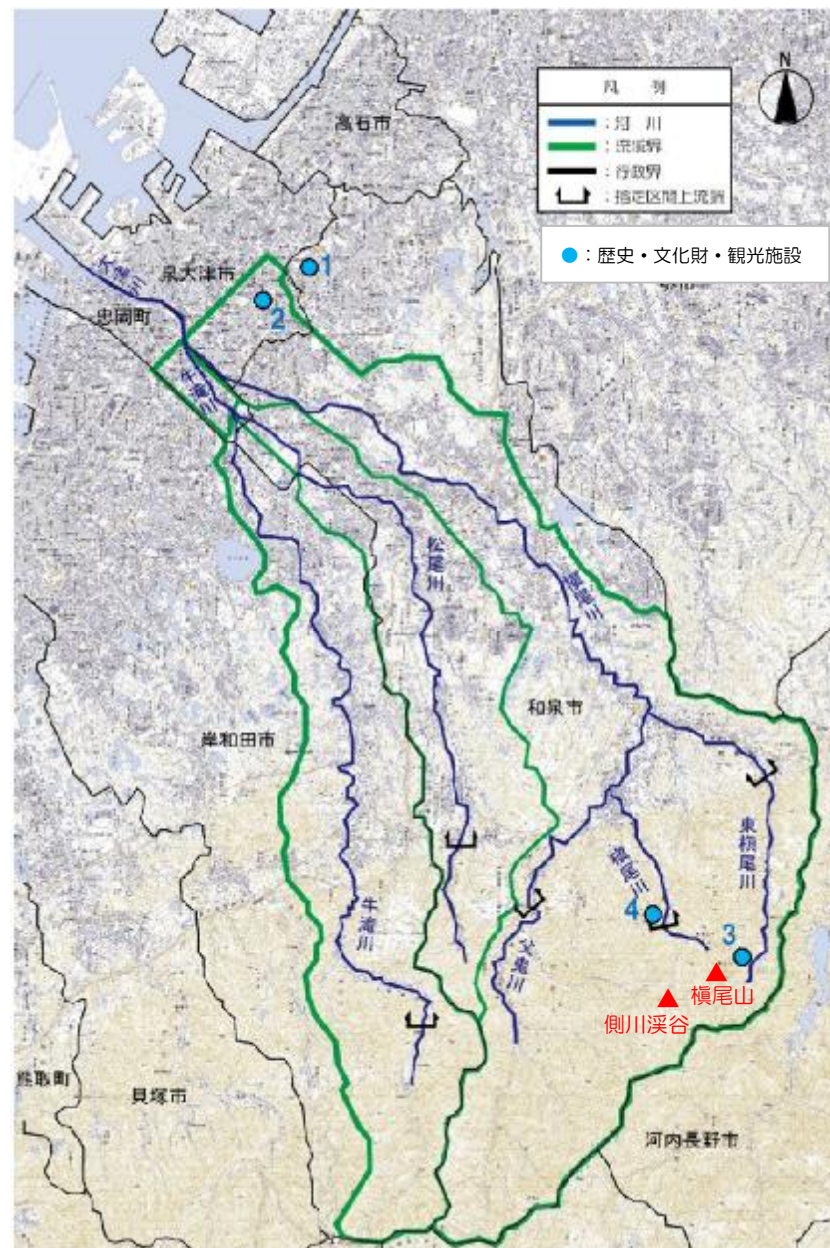
1.池上曽根遺跡



2.泉穴師神社



3.施福寺



歴史・文化・観光施設位置

6. 大津川流域の現状について

治水の現状と課題

- ▶ 昭和27年7月豪雨を契機に災害復旧事業に着手/昭和46年より全体計画を定め河川改修を実施
- ▶ 昭和57年8月の水害、関西国際空港の開港に伴う丘陵地開発等の進展により槇尾川上流に治水ダムを計画/松尾川では開発者の直接施工も含め河川改修を推進
- ▶ 平成21年6月にダム本体工事着手/平成23年2月に「ダムに頼らない河川改修」を選択
- ▶ 高潮堤防は完成/地震・津波対策は未実施

- ▶ 槇尾川、牛滝川、松尾川では一部区間で護岸の老朽化
- ▶ 大津川は土砂が堆積傾向
- ▶ 牛滝川は土砂が堆積傾向（中流） / 松尾川は河床低下（下流）、洗掘による護岸崩壊も発生（中流）
- ▶ 槇尾川は土砂が堆積傾向（中流） / 東槇尾川は槇尾川合流付近で土砂が堆積傾向

<課題>

- ▶ 東南海・南海地震等への対策を実施する必要がある
- ▶ 老朽化護岸の解消
- ▶ 土砂堆積や河床低下による災害防止
- ▶ 治水安全度の早期向上

■昭和27年7月豪雨



1. 泉大津市役所玄関（泉大津市）

■昭和57年8月台風10号・豪雨



2. 槇尾川川中橋下流（和泉市三林町）

■平成7年7月豪雨



3. 槇尾川国府河頭井堰付近（和泉市阪本町）

■平成23年9月台風12号・豪雨（洗掘による護岸崩壊）



4. 松尾川冬堂橋下流右岸（和泉市春木町）



護岸の老朽化（牛滝川）

6. 大津川流域の現状について

河川利用及び河川環境の現状と課題（空間利用）

- Ⅰ 下流の高水敷を河川公園として活用
- Ⅰ アドプト・リバー・プログラム（認定団体20団体以上）
- Ⅰ 「ひつじ飼育による河川環境づくり」（松尾川）
- Ⅰ 地元小学校・NPO・和泉市等と連携した「水辺の学校」を開催（大津川、槇尾川）
- Ⅰ 「ふるさとの川整備」（松尾川中流）、「ふるさと砂防事業」（牛滝川最上流）を実施
- Ⅰ ため池の保全と活用を中心とした「黒石地区ため池保全協議会」等が発足（不法投棄や環境保全に対する取り組み）（槇尾川流域）

<課題>

- ▶ ため池の保全・活用
- ▶ 人と川とのつながりの確保
- ▶ 地域活動の継続

和泉市総合計画



いこいの自然共生ゾーン
 自然の保全を第一に考えつつ、農林業地域としての基盤を整えながら、自然の恵み癒しを最大限享受できる「自然と共生した生活」が可能な地域となるよう、地域の様々な意見も踏まえながら、土地利用を規制・誘導する。

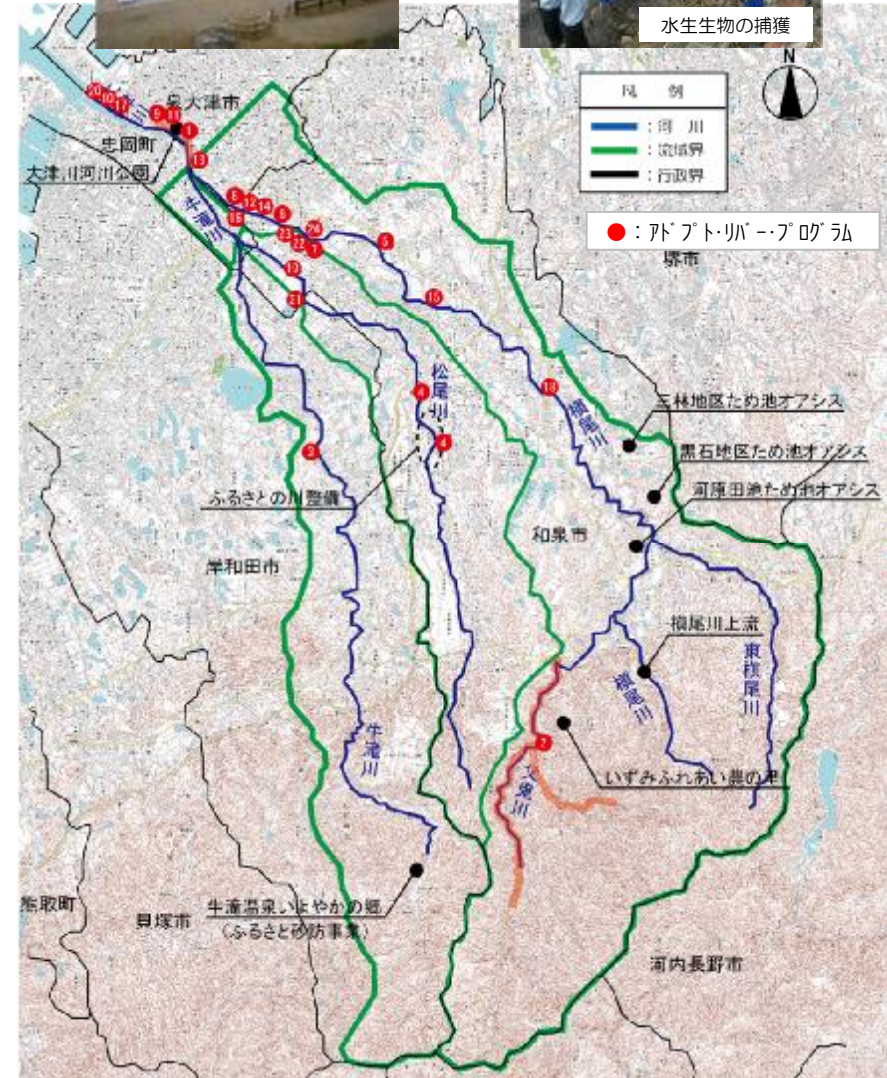
河川公園（大津川）



水辺の学校



水生生物の捕獲



7. これからの大津川流域での取り組みについて

流域の将来像

総合計画等

- Ⅰ 災害に強いまち（市民が安全で安心して暮らせるまちづくり）を目指す。
 - ▶ 自助・共助・公助が一体となったコミュニティの形成
 - ▶ 市民、事業者、行政の連携による地震、洪水等の災害リスク低減対策の推進
 - ▶ 災害時の円滑な避難、防災基盤の強化やハザードマップの整備等

- Ⅰ 魅力ある都市空間・豊かな自然があふれるまちを目指す。
 - ▶ 河川、海岸等における自然環境の保全及び水辺空間の整備

新環境総合計画

- Ⅰ 府民がつくる暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市を目指す。
 - ▶ 生物の生息・生育環境の保全と回復
 - ▶ 良好な水環境の確保
 - ▶ 健全な水循環の保全・再生
 - ▶ 広域的な緑のネットワークの形成
 - ▶ 多様なみどりの創出



- Ⅰ 大津川水系では、流域住民にとって安全な暮らしの基盤となる河川整備を着実に進めるとともに、河川が持つ多様な自然環境に配慮し、流域住民が身近に親しめる河川空間を創造する。
- Ⅰ また、良好な河川環境の維持に向けて住民・行政の協働による維持管理活動に取り組む。
- Ⅰ 河川氾濫等に対して住民が的確に避難行動がとれるよう、関係市町と連携した情報提供に努める。

7. これからの大津川流域での取り組みについて

河川整備計画の目標

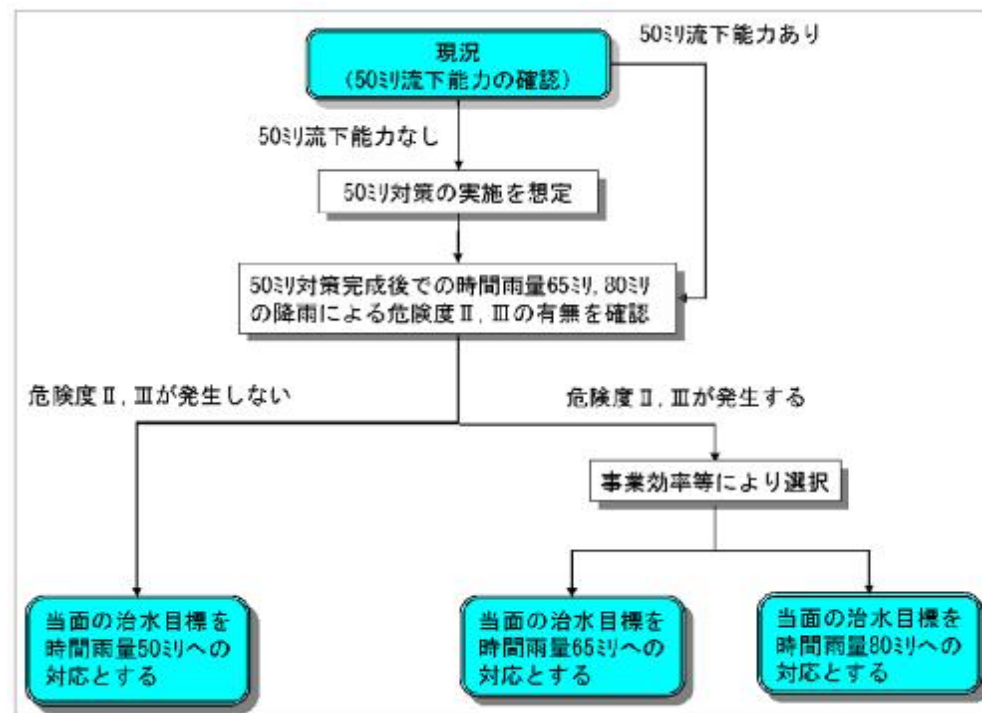
1) 洪水対策

I 当面の治水目標（今後20～30年程度）

- 基本理念：人命を守ることを最優先とする。
- 大阪府全域で時間雨量50ミリ程度の降雨に対して床下浸水を防ぐ。
- その後、事業効率等を考慮して、時間雨量65ミリ程度もしくは時間雨量80ミリ程度のいずれかの降雨による床上浸水を防ぐ。

I 大津川水系の当面の治水目標

- 大津川：現状維持
- 榎尾川：時間雨量65ミリ程度
- 東榎尾川：時間雨量65ミリ程度
- 父鬼川：現状維持
- 牛滝川：時間雨量65ミリ程度
- 松尾川：時間雨量80ミリ程度



当面の治水目標設定フロー

ただし、当面の治水目標に基づく河川整備が進んでも危険度Ⅰ（床下浸水）は残る。

7. これからの大津川流域での取り組みについて

2) 地震・津波対策

- Ⅰ 河口部の護岸・堤防について、海溝型のL2地震動による堤防の沈下等を考慮したうえで、L1津波が越流しないようにする。
- Ⅰ L1津波を超える津波に対しては、津波が天端を越流した場合であっても、護岸・堤防等の河川管理施設が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くする、あるいは、同施設が完全に流出した状態である全壊に至る可能性を少しでも減らす。

3) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- Ⅰ 今後とも、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

4) 河川環境の整備と保全

- Ⅰ 流域が持つ歴史・文化・景観や流域の多様な自然環境に配慮し、各地域の特色を活かした川づくりを行う。
- Ⅰ 多様な生物の生息・生育環境の保全、良好な景観の確保に向けて自治体、地域住民、学校等と連携し、更なる水質改善に努める。
- Ⅰ 生物多様性の保全のため、外来種の繁茂・繁殖等により生態系に悪影響を及ぼすような場合は、外来生物法に基づき関係機関と連携して対応に努める。

7. これからの大津川流域での取り組みについて

計画対象区間、期間

計画対象区間

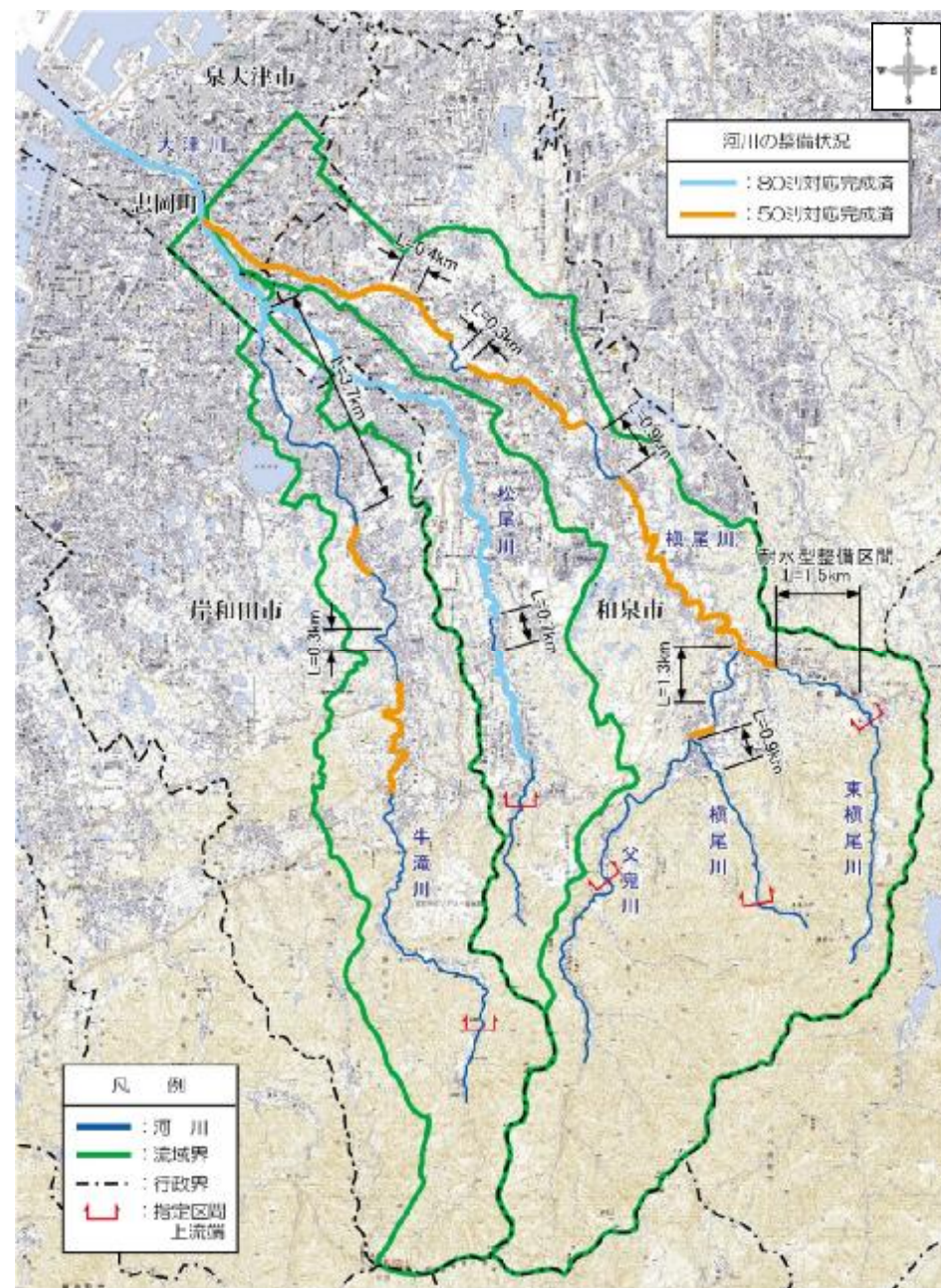
- I 大津川水系の二級河川指定区間
 - p 洪水対策：牛滝川、松尾川、槇尾川、東槇尾川
 - p 地震・津波対策：大津川
 - p 維持管理等：大津川水系の二級河川指定区間

整備対象区間（洪水対策）

河川名	整備対象区間	整備延長
牛滝川	JR阪和線～宮前橋上流 (1.8km～5.5km) 稲葉橋上流～下橋下流 (7.7km～8.0km)	約L=4.00km
松尾川	庄ノ川橋～冬堂橋上流 (7.1km～7.8km)	約L=0.70km
槇尾川	桑原井堰～郷荘橋上流 (3.4km～3.8km) 小井堰～山深橋 (4.9km～5.2km) 城前橋下流～川中橋 (7.6km～8.5km) 神田橋下流～宮之前橋下流 (12.4km～13.7km) 父鬼川合流点～そうず橋上流 (14.4km～15.3km)	約L=3.80km
東槇尾川	新小路橋～栗木橋下流 (0.7km～2.2km)	約L=1.50km (耐水型整備区間)

計画対象期間

- I 計画策定から概ね30年



整備対象区間平面図（洪水対策）

7. これからの大津川流域での取り組みについて

河川整備（洪水対策）の内容

①牛滝川

牛滝川では、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

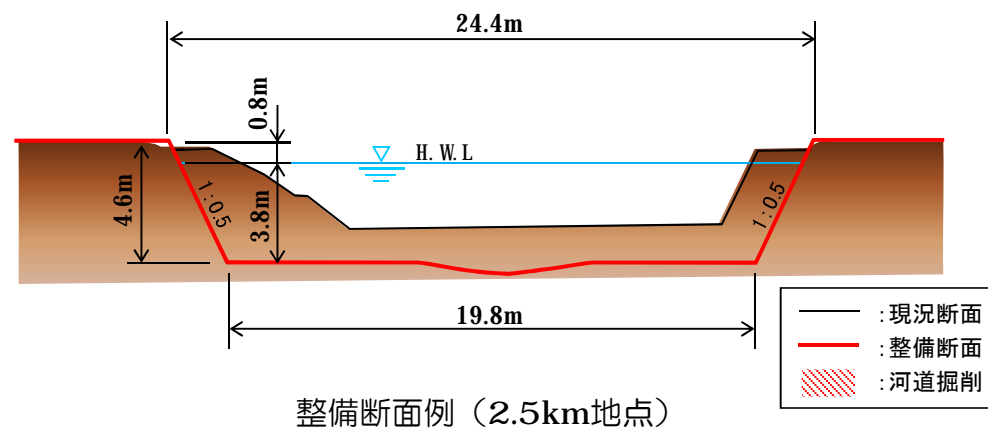
河道拡幅・河床掘削により流下能力の向上を図る。

整備にあたっては、河床の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、自然環境の保全を図る。



整備対象区間平面図

牛滝川（JR阪和線～宮前橋上流区間 他）
整備目標：65ミリ程度、整備延長：約L=4.00km



※施設の設計に当たっては、河川縦断勾配や曲線等、平面形状による洗掘等を考慮した構造を検討する。

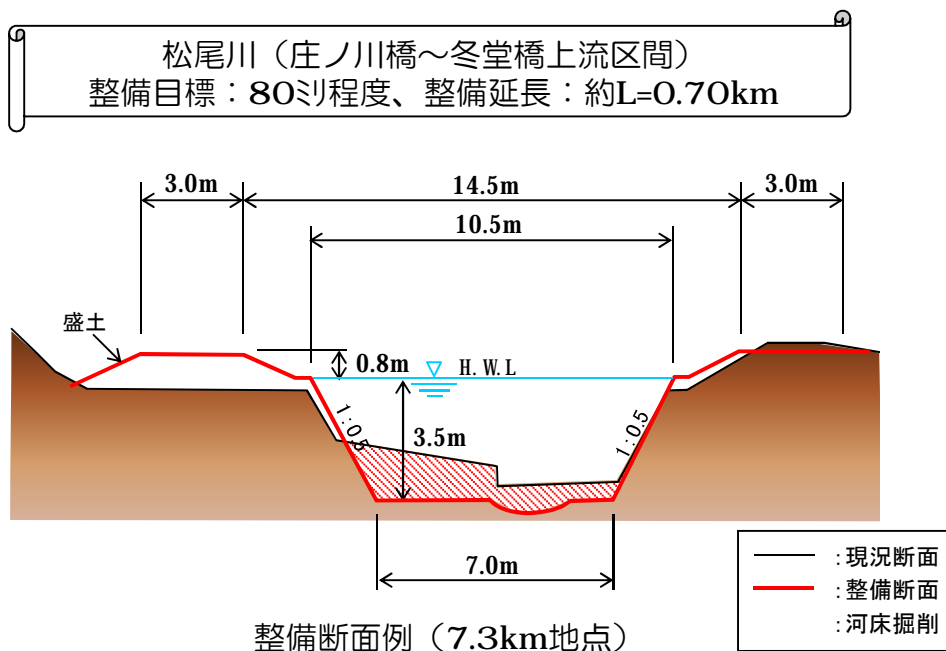
7. これからの大津川流域での取り組みについて

②松尾川

松尾川では、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。
河道拡幅・河床掘削により流下能力の向上を図る。
整備にあたっては、河床の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、自然環境の保全を図る。



整備対象区間平面図

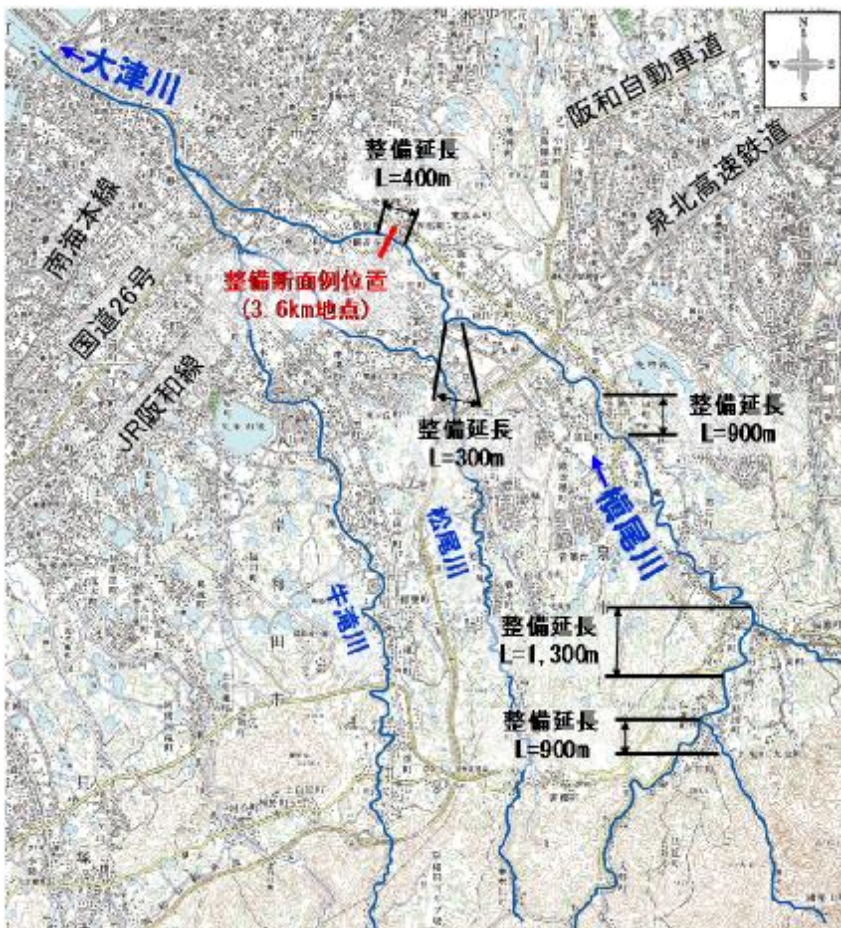


※施設の設計に当たっては、河川縦断勾配や曲線等、平面形状による洗掘等を考慮した構造を検討する。

7. これからの大津川流域での取り組みについて

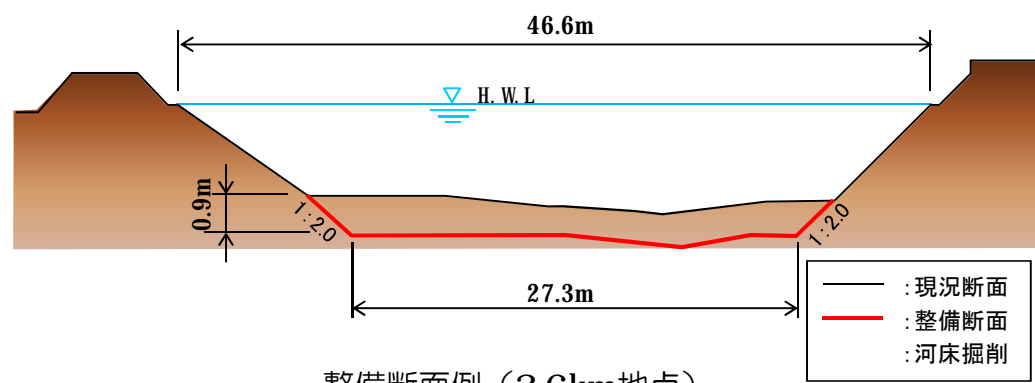
③ 槇尾川

槇尾川では、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。
河道拡幅・河床掘削により流下能力の向上を図る。
整備にあたっては、河床の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、自然環境の保全を図る。



整備対象区間平面図

槇尾川（桑原井堰～郷荘橋上流区間 他）
整備目標：65ミリ程度、整備延長：約L=3.80km



整備断面例（3.6km地点）

※施設の設計に当たっては、河川縦断勾配や曲線等、平面形状による洗掘等を考慮した構造を検討する。

7. これからの大津川流域での取り組みについて

④東槇尾川

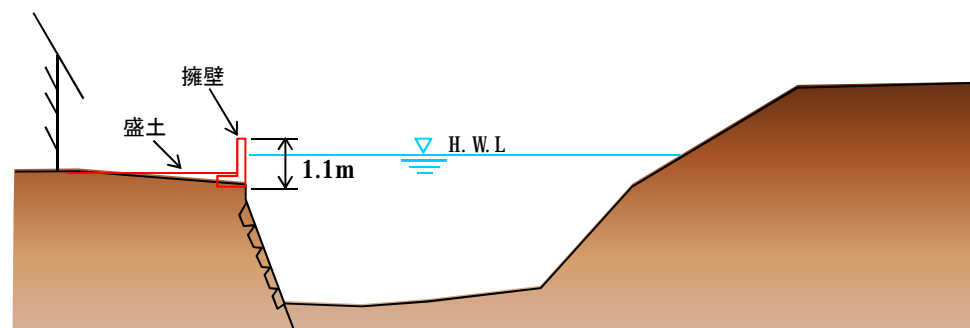
東槇尾川では、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

耐水型整備区間に位置付け、人命への影響を最優先に堤防整備を行うとともに、対策が必要な区間において、人家、地形等の状況に応じた措置を講じることで浸水被害の解消を図る。



整備対象区間平面図

東槇尾川（新小路橋～栗木橋下流区間）
整備目標：65ミリ程度、整備延長：約L=1.50km



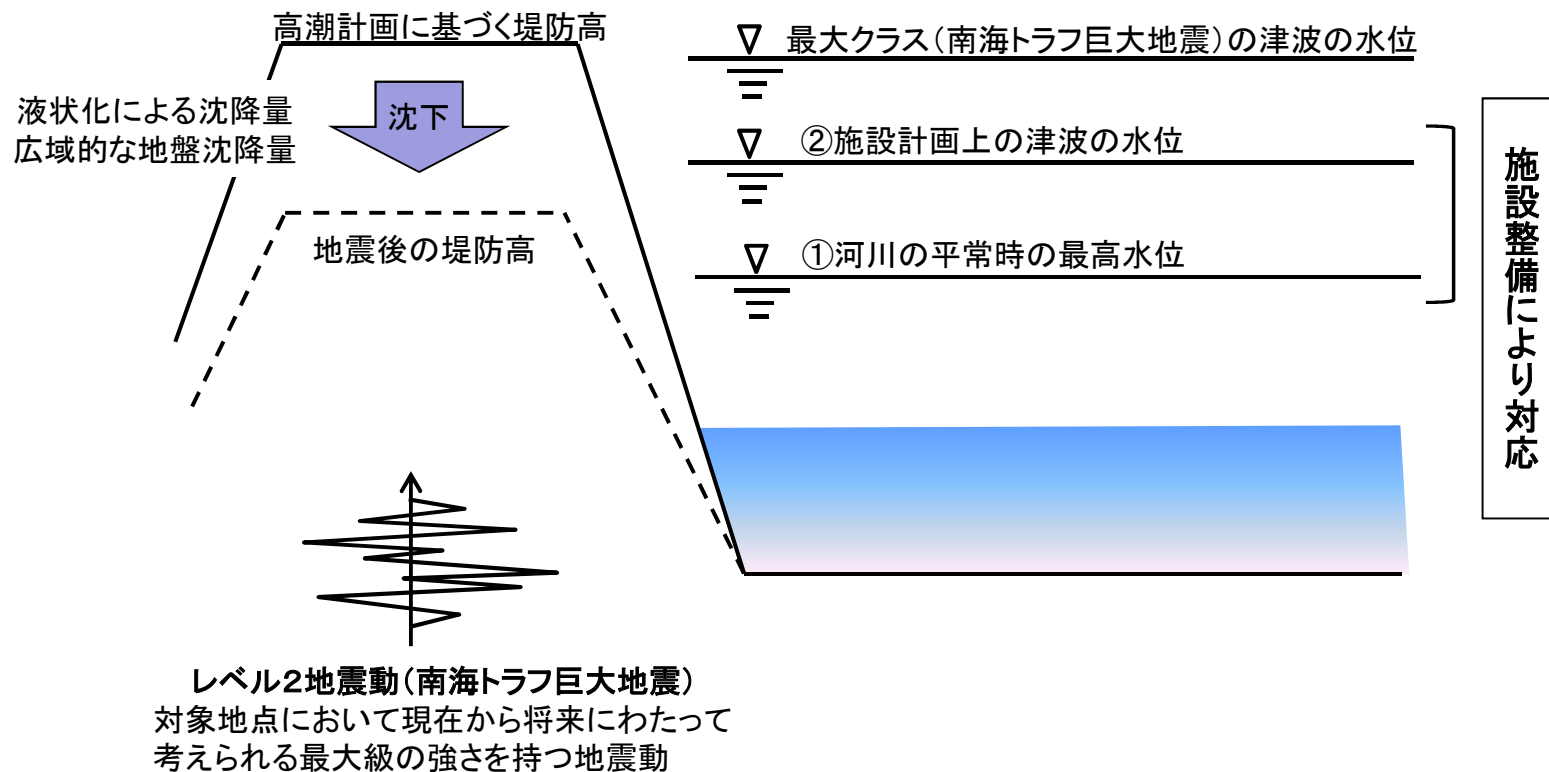
整備断面例（2.2km地点）

— : 現況断面
— : 整備断面

7. これからの大津川流域での取り組みについて

5. 地震・津波対策の内容

- I 河口部の護岸・堤防は、L2地震動による堤防の沈下等を考慮したうえで、L1津波が越流しないよう護岸・堤防を整備する。
- I L1津波を超える津波に対しては、津波が天端を越流した場合であっても、護岸・堤防等の河川管理施設が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くする、あるいは、同施設が完全に流出した状態である全壊に至る可能性を少しでも減らすといった減災効果が発現できるよう粘り強い構造とする。



7. これからの大津川流域での取り組みについて

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持の内容

- Ⅰ 継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握を行う。

河川環境の整備と保全の内容

- Ⅰ 利用実態のない井堰の撤去、落差工の改善と合わせて水域の連続性の確保に努める。
- Ⅰ 関係市町や地域住民と協力して、水生生物の生息・生育状況の確認や整備効果の予測・検証を行う。
- Ⅰ 緑の連続性を確保する軸として、大津川及びその支川の整備と保全を図ることにより、適正な水循環の確保と水と緑のネットワークの形成に努める。
- Ⅰ 水辺に親しめる親水空間の整備等を行い、良好な河川環境を整備する。
- Ⅰ 整備済みの親水空間や河川公園などは、地域住民や関係機関と協働し、水辺空間を維持し、引き続き府民に親しまれる川づくりに努める。
- Ⅰ 関係市町の環境部局における行政指導や下水道施設等による水質改善を行う。
- Ⅰ 生活排水による河川への負荷軽減に向けた環境教育の推進及び啓発活動等を進め、水質改善に努める。



松尾川中流部の親水空間



大津川の河川公園



生活排水対策パネル展示



アクリルたわしづくり体験

7. これからの大津川流域での取り組みについて

河川の維持管理

- Ⅰ 河川管理施設⇒堤防等の施設の定期点検等により施設の劣化状況等の把握に努め、補修箇所の優先順位を定めて計画的に補修を行う。
- Ⅰ 土砂の堆積等⇒堆積状況を定期的に調査し阻害率の高い区間を把握し、地先の危険度などを考慮して優先順位を定めて計画的に撤去を行う。
- Ⅰ 水衝部等災害が懸念される箇所⇒重点的な河床低下対策を実施中。【松尾川中流（箕形橋～唐国橋）】
- Ⅰ 河川空間の維持管理⇒様々な地域団体の活動や教育機関と連携し、河川美化活動や環境学習の促進に努める。



河川管理施設の巡視点検



堆積土砂の撤去



河床低下対策



地域との連携による河川清掃



7. これからの大津川流域での取り組みについて

地域や関係機関との連携

- Ⅰ 今後、検討する事項（ため池や農地の活用、公共施設を利用した雨水貯留施設、雨水調整池の設置指導、森林保全、開発による流出抑制施設の恒久化など）
- Ⅰ 地域住民が中心となった「アドプト・リバー・プログラム」等の活動が流域全体に広がり、多様な主体による流域全体での治水・利水・環境への取り組みが展開するように努める。
- Ⅰ 槇尾川上流の山地部は比較的都市部に近い貴重な環境資源であることから、様々な主体（地域住民、大学、企業、和泉市等）との連携・協力により森・川・道を保全・再生し、広く府民の交流の場として活用されることを目指す。
- Ⅰ 周辺環境に調和した親水性のある河川空間を検討するなど、川への関心を高め、川を訪れることを促す環境整備に取組み、川とまち、川と人とのつながりを再構築する。



アドプト・リバー・プログラム
（河川敷等の清掃活動）



アドプト・リバー・プログラム
（ひつじに会える河川敷）



地元住民・大学生等との連携による間伐作業（槇尾川上流部）

7. これからの大津川流域での取り組みについて

河川情報の提供

- I 河川氾濫や浸水に対しては、住民が的確に避難行動をとれるよう、関係市町と連携した情報提供に努める。
- I なお、情報提供にあたっては、行政からの一方的なものにとどまらず、過去の浸水被害の情報等の聞き取りなどを行い、地域特性に応じた情報の双方向伝達システムの構築に努める。
 - ① 現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
 - ② 必要な情報の提供及び伝達
 - ③ 住民の防災意識の醸成

具体的な取り組み

- ① 様々な降雨による地先の危険度をわかりやすく周知する洪水リスク表示図の作成及び公表
- ② 地域単位でのワークショップの開催等による地域住民へ洪水リスクの周知
- ③ 過去の災害実績や避難経路の確認（防災マップ作成、簡易型図上訓練等）
- ④ 住民が自ら行動できる避難体制づくり（自主防災組織の設立、防災リーダー育成等）



まち歩き状況（和泉市仏並町大畑町会）



手作りハザードマップと作成風景（和泉市仏並町会）

7. これからの大津川流域での取り組みについて

1) 洪水はん濫・浸水の危険性の周知

- I 現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、大津川水系では洪水リスク表示図を開示しています。
- I この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ程度（約1/10）、時間雨量65ミリ程度（約1/30）、時間雨量80ミリ程度（約1/100）、時間雨量90ミリ程度（約1/200）降雨時の4パターンのはん濫解析結果を危険度（3段階）、最大浸水深（7段階）の2パターンで表示します。

洪水リスク表示図

【大阪府 洪水リスク表示図】 <http://www.river.pref.osaka.jp/>



地先における河川氾濫や浸水の可能性を確認できます。

家にパソコンがなくても、大阪府
鳳土木事務所、岸和田土木事務所
で閲覧できます。



各土木事務所での洪水リスク表示図の開示状況

7. これからの大津川流域での取り組みについて

2) 大阪府などによる情報提供

1 大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしていきます。

防災情報

【おおさか防災ネット】

<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

【大阪府都市整備部河川室 河川防災情報】

<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>



大津川流域の雨量、流域内主要河川の水位状況、洪水予報などを確認できます。



防災情報を携帯電話で入手できます。
下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。
touroku@osaka-bousai.net



川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。
<http://i.river.go.jp/>
直接アクセスしてください。



大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。
<http://www-cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>
直接アクセスしてください。

